



高橋 利行 政治評論家

政治評論家、読売新聞元世論調査部長、解説部長、論説委員

東京都出身、昭和18年生。中央大学法学部卒業後、読売新聞社入社。地方部・社会部を経て、政治部記者として田中派・竹下派・橋本派中心に担当。外務省、自民党、首相官邸記者クラブキャップを経て、平成元年政治部次長。その後、世論調査部長、解説部長、論説委員、編集局次長、新聞監査委員長歴任。平成15年退社後は、政治評論家として活躍。

私が今日お話をしたいのは、ロシアがウクライナに侵攻した。これをどうお考えですか。物価も上がるし、小麦も肉も値段が上がる。今度はイスラエルとハマス。船賃も上がる。輸送費もかさむ。皆さん、物価が上がって困ったなというけれど、戦争は遠い国の出来事だと思っておられるのではないのでしょうか。本当はそうじゃないんです。もう我々の近くに戦争は近づいてきている。一つは、ロシアがウクライナに攻め込んだ意味ですよ。ロシアはどういう立場でしょうか？ 第二次世界大戦後の世界平和に責任を持つのが戦勝5大国、国連の常任理事国の使命で任務でもあります。そのロシアが率先してウクライナに攻め込んだんですから、国際秩序は今や無きに等しい。あの国は常任理事国だから安心していられる。そういうものは通用しない。第二は、ウクライナが頑張って抵抗しているからこそ、多くの国が国際的

な支援をしている。もちろんアメリカ、そしてEU、NATOも。日本も武器弾薬は出せないけど支援している。

日本の周りには、私は餓狼と言っているんですけど、中国・ロシア・北朝鮮。こんな3悪が揃っている地域は他にないんです。その3悪がいつどこで日本に牙を剥いてくるか。そんなことないよ、台湾に先に来るよ、という人がいる。そうかもしれないけれど、台湾の危機は日本の危機とほとんど同じであります。では、尖閣に人民解放軍が来たらどうなるんでしょうね。その時、日本が戦う姿勢を見せなければ、誰も助けに来ない。御指摘のあったように、多くの学者、メディアは、自衛隊は違憲だといって憚らない。でも私たちが頼りにするのは自衛隊にほかならないじゃないですか。自衛隊が戦ってくれるんですよ。逃げ出しはしないと思います。私たちも自衛隊を背後から支

援する。場合によっては一緒に戦う。そうしなければ、世界中の国は、どんなに同盟を結んでいても、まず当事者になるかもしれない日本が戦わなければ、誰も助けない。そういうことをウクライナ戦争は私たちに見せてくれた。たぶんあと数年のうちに、日本周辺の危機は最高潮に達すると思います。だから今、ウクライナ、イスラエル、パレスチナの動きをしっかりと見て、私たちは何をしなければならないかを強く考えなければならない。

もう一点、日本がどこから攻められた。その時、自衛隊は、政府、内閣総理大臣はどうすると思いますか？逃げ出す？自衛隊は逃げ出しませぬね。私はそうは思わない。自衛隊はたとえ憲法違反と言われても、たぶん、間違いなく立ち上がって、日本の国家を守ってくれると思います。これがのちに違憲の存在だからけしからんということで、それでも戦って守ってくれた。これは2つ危険をはらんでいる。日本の国土領海を守って、国民の生命財産を守るとなると既成事実がまかり通ったことになる。憲法違反と言われながら国民を守った。それでも国民は自衛隊に拍手喝采する。憲法はなし崩しに改正される、これでいいのか。憲法学者の間には、憲法の中に自衛隊が入ってしまう。そうすると誰がコントロールするのか。何でもできてしまうのは危険じゃないかという人がいる。それならば憲法に自衛隊を書き込んで、どうコントロールするか、肝となる条文を入れればいいじゃないですか。そうでなければ最悪の場合自衛隊は勝手に動きますよ。勝手に動くしかない。生命財産を守るために働く。違憲の存在が暴

れまわったことになる。それは賢明な選択ではない。だから、憲法に自衛隊を明記し、どうコントロールするか。出来ることできないことをはっきりさせるのが最も重要なテーマです。

先ほど自民党案の4項目の話がありましたが、改正しなければならない点は、4項目だけじゃないんですよ。施行から77年。人間に例えれば喜寿ですね。歳を取ってしまった。かつて、日本で生まれた携帯電話のことを「ガラケー」と言っていました。今の憲法は言ってみれば「ガラパゴス憲法」。略して「ガラ憲」ですよ。世界遺産みたいなものだ。そうじゃなくって、私たちはもっと生き生きとして、血が通った憲法をこれから作っていかなければならない。その一歩として、4項目について何としても前進させたい。そう思って、毎年毎年、皆さんと一生懸命憲法改正に向けて何とか進んでいきたいと思っているんです。

危機というのは、10年、20年経って来る場合もありますし、明日来る場合もあるんです。ところが飛んでくるミサイルは超音速どころじゃない、極超音速で飛んでくるんですから、国際情勢はがらりと変わる。憲法改正は急がねばならないのです。まともな国家に日本をしようではありませんか。皆さん、憲法改正は日本国と日本国民の生命財産、大事にしている家族や友人を守るために、今からやらなければならないんだよ。これを家に持ち帰って話してみてください。ありがとうございました。(拍手)